HITA PRIDE PROJECT

茅葺き職人

日田市前津江町

井手 荘和可

〈40〉

仲間を日田に連れて帰ってきて

SOWAKA IDE

1976年生まれ。
福岡市育ち。福岡県内の大学を卒業後、同県内の企業に就職したが、会社を辞め職業訓練校へ。2005年に日田市前津江町に移住した。屋根の葺き替えを請け負う「奥日田美建」の社員。

古民家や文化財などの伝統的な日本の屋根を葺き替える茅葺き職人。九州を中心に古民家や文化財の屋根の改修や補修をしている。5年前には三重県の伊勢神宮の遷宮にも関わった実力派。早朝に家を出て帰宅は夜中になる生活。屋根の上での作業は冬寒く、夏暑い。苦労は多いが「どんな現場でも依頼者に喜ばれる仕事だから、やりがいがある」

福岡市で生まれ育った。小学生のころ、夏休みには祖父の家がある福岡県の旧杷木町（現朝倉市）でよく遊んだ。土間がある茅葺き屋根の家で寝起きし、川で魚を捕り、山でクワガタやカブトムシを探した。「漠然と『田舎っていいな』と思っていた」

そんな漠然とした思いを形にしようと動いたのが、28歳の時だった。脱サラして「大工の仕事を学びたい」と職業訓練校に入った。間もなく、茅葺き職人の仕事を知る。ちょうど福岡県久山町で古民家の屋根を扱っているところを目にした。古い屋根に興味はあったが、実際に作業を見るのは初めて。屋根の上で黙々と仕事をする職人たちの姿に「理由はうまく言えないけど、とにかく、おもしろそうだと思った」。2回、3回と足を運んだ。現場を仕切っていたのが日田市内に住む茅葺き職人三苫義久さんだった。今の師匠だ。見学するうち手伝うようになり、弟子入りを申し込んだ。その条件が「（作業場のある）前津江に住むこと」だった。

訓練校を卒業し、29歳で妻と娘と3人、引っ越してきた。しかし最初は仕事で怒られる日々だった。「何度も辞めようと思ったけど家族がいたから踏ん張れた。いいかげんなことは、できんもんね」。今では、後輩を指導する立場になった。「教えたことを後輩ができるようになることは楽しい」

前津江で暮らすようになって、川での魚釣りが趣味になった。疲れて帰った夜は、満天の星に癒やされる。春にはワラビやゼンマイなど山菜を味わい、秋には栗や山芋も採れる。たびたび、近所からのお裾分けもある。そんな何げない日常に「良さ」があふれていて、「都会で経験できないことが、ここにはたくさんある」と感じる。

「これから日田を担う若者にメッセージを」と問いかけたら、「うーん」としばらく考え込んで、こう言った。「進学や就職を考えると、一度日田を離れるのは仕方ないのかもしれない。外の世界を知って、たくさんの経験をして人脈をつくったら帰って来て、仲間を日田に連れてくる。それが続けば少しずつ、日田も変わっていくんじゃないかな」